

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和05年06月23日(金)

事務事業		家庭教育事業		担当課	生涯学習スポーツ振興課	担当係	生涯学習係	管理番号	73143		
総合計画	大項目	2	次代を担う人と文化を育むまち		事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務					
	中項目	1	共に学び成長が実感できるまちづくり		根拠法令 個別計画等	家庭教育だよりまごころ作成委員会要綱					
	小項目	2	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上								
	主要プロジェクト										
事業概要		家庭教育の啓発と家庭・地域の教育力の向上のため、幼児・小学生・中学生をもつ家庭と地域住民を対象として、家庭教育だより「まごころ」を年3回発行し配布することにより、家庭教育の重要性に気づかせることができる。また、親が親として育ち力をつけるため、「親の学習」講座を実施する。									
目的 ※何のために		家庭教育の啓発と家庭・地域の教育力の向上のため									
対象 ※誰・何を対象に		幼児・小学生・中学生を持つ家庭と地域住民									
手段 ※どのように		家庭教育だより「まごころ」の発行・配布									
成果 ※何を求めるか		家庭教育の重要性に気付かせ、また、親が親として育ち力をつける手助けを行う。									
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 市民ボランティア <input type="checkbox"/> NPO等 <input checked="" type="checkbox"/> その他( 幼小中教職員等 )									
事務事業を 構成する 予算事業		区分	款		項		目		細事業名	前年度決算額(円)	
		一般会計	10	教育費	5	社会教育費	1	社会教育総務費	家庭教育事業【生涯学習スポーツ振興課】	94,897	
本事業の 主な業務		・「まごころ」編集委員会の開催							・		
		・「まごころ」の配布(年3回)							・		
		・家庭教育講座(小学校就学時健診時)の開催							・		
		・							・		
		・							・		
		・							・		

2. 事業費(投入コスト)

単位: 円

区分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
年度別計画		・「まごころ」発行(年3回編集委員会の開催・「親の学習講座開催	・「まごころ」発行(年3回編集委員会の開催・「親の学習講座開催				
事業費	予算(現額)	95,000	95,000	95,000	127,000		
	決算額	94,932	94,897	0	0		
	財源内訳	国支出金	0	0	0		
		県支出金	0	0	0		
		地方債	0	0	0		
		他特定財源	0	0	0		
	一般財源	94,932	94,897	95,000	127,000		
人件費	従事職員数(人)	0.39	0.48	0.73	0.73		
	人件費相当試算※	3,027,147	3,777,387	5,983,363	5,983,363		
総事業費試算		3,122,079	3,872,284	6,078,363	6,110,363		

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名		単位	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
	目標値	実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
活動指標 1	実績値の算出式		回						
	まごころ年間発行回数	目標値		3.00					
		実績値		3.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
活動指標 2	実績値の算出式		部						
	まごころ年間発行部数	目標値		19,500.00					
		実績値		19,000.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所			H 2 7 年度以降は回覧形式に変更しているため、市内の回覧部数を参考に目標値を設定 / H 2 7 以降は1回6500部発行					
活動指標 3	実績値の算出式		回						
	「親の学習」の開催回数	目標値		29.00					
		実績値		12.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所			市内全29の小中学校での「親の学習」開催を目標に設定している。					
成果指標 1	実績値の算出式		人						
	「親の学習」参加者数	目標値		1,400.00					
		実績値		658.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所			小学校新入学児童保護者全員が「親の学習」に参加することを目標とする。					
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。  
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。  
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に適う成果がでているかを評価します。  
(評価基準) (A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない)

(1) 事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	B	家庭教育日より「まごころ」は、年3回（8月・11月・3月）発行でき、目標を達成できた。 また、「親の学習」講座については、コロナ禍における学校運営の都合により、実施できなかった小学校もあったが、19校中12校で実施することができた。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	C	「親の学習」講座については、コロナ禍における学校運営の都合により、実施できなかった小学校もあったことで、参加者数は658人（47%）と少なく、大幅に目標値を下回った。
			評価者 生涯学習係長 荻塚 文彦

(2) 事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。  
(評価基準) (A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない)

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	A	家庭教育日より「まごころ」は、編集会議の事前調整を行い、年3回効率的に実施している。また、児童・生徒が保有するタブレット端末やウェルキッズ（幼稚園保護者メール）を活用し「まごころ」PDFデータを配信することで、効率的に啓発を行っている。また、「親の学習」講座については、新1年生の親が一堂に会する就学時健診時に、人権教育講座とともに「親の学習」講座を行い、毎年、効率的に実施しているところである。
			評価者 生涯学習係長 荻塚 文彦

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和3年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	・中学生の保護者を対象とした「親の学習」機会が少ないことから、効果的な啓発方法を検討する。
達成状況及び その効果	令和4年度に、埼玉県家庭教育アドバイザーとともに、親の学習に関する啓発動画（子どもとスマートフォンの関わり）を制作した。令和5年度以降、PTA等へ啓発動画を周知するとともに、引き続き、新たなテーマの動画を制作していく予定である。

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	家庭教育事業	担当課	生涯学習スポーツ振興課	担当係	生涯学習係	管理番号	73143
<div><div><div>■ ①拡充, 重点化(コスト投入)</div><div>□ ②現状のまま継続</div><div>□ ③見直しして継続</div><div>□ ④目的達成による終了</div><div>□ ⑤廃止を検討</div></div><div><div>□ 委託化等の検討</div><div>□ 成果向上のための改善</div><div>□ 効率化のための改善</div><div>□ 事業規模の縮小</div><div>□ 他の事務事業と統合</div></div></div>		<div>評価の内容説明</div> <div>家庭教育だより「まごころ」については、年3回印刷発行し、関係機関や回覧板等で周知・啓発を行っているとともに、児童生徒の持つタブレット端末などに電子データを配信し、保護者等の学習機会の拡充を図っている。 また、「親の学習」講座については、引き続き、埼玉県家庭教育アドバイザーを講師としてグループワーク形式での充実した講座を実施できるよう努めるとともに、すべての小学校で継続的に実施できるよう学校と調整を図る。特に、啓発動画（8分程度）については、保護者が気軽に学習できる機会として、今後も新たなテーマの動画を制作できるよう家庭教育アドバイザーと検討を進める。</div>					
上記を実施するための具体的な取組内容は？		評価者	生涯学習スポーツ振興課長 荻塚 洋明				

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和5年度に実施する 改善・改革案 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	「親の学習」啓発動画の制作について、今後も検討を進める。
令和6年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	

8. 評価指標グラフ

区分	活動指標 2	指標名	まごころ年間発行部数
<div><div><div>19600</div><div>19400</div><div>19200</div><div>19000</div><div>18800</div><div>18600</div></div><div><div>令和4年度</div><div>令和5年度</div><div>令和6年度</div><div>令和7年度</div><div>令和8年度</div><div>令和9年度</div></div><div><div>目標値</div><div>実績値</div></div></div>			
区分	活動指標 3	指標名	「親の学習」の開催回数
<div><div><div>40</div><div>30</div><div>20</div><div>10</div><div>0</div></div><div><div>令和4年度</div><div>令和5年度</div><div>令和6年度</div><div>令和7年度</div><div>令和8年度</div><div>令和9年度</div></div><div><div>目標値</div><div>実績値</div></div></div>			